



あなたの、いちばんであるために。 2022.1~3月期 No.057

# やましん

## 中小企業景況レポート

山梨信用金庫 経営企画部  
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36  
TEL 055-225-0213  
ホームページアドレス  
<https://www.yamasin.jp/>

2022.4.15 発行

### ■ 調査要領 ■

1. 調査対象  
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120 社
2. 調査時期・期間  
調査時期：2022年3月1日~7日  
調査期間：今期実績 2022年1月~3月  
来期見通し 2022年4月~6月
3. 調査方法  
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法  
DIを中心に分析
5. 特別調査  
「原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について」

### ■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	29	28	96.5%
卸売業	15	14	93.3%
小売業	15	14	93.3%
サービス業	27	26	96.2%
建設業	24	24	100.0%
不動産業	10	9	90.0%
合計	120	115	95.8%

### ※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い（増加）」とした企業割合－「悪い（減少）」とした企業割合の構成比との差（判断DI）による分析です。  
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

（例）「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝+30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

### 業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲6.2	17.5	34.2	▲16.7	15.7	33.3	▲17.6
製造業	11.1	28.5	39.2	▲10.7	25.0	39.2	▲14.2
卸売業	13.3	7.1	35.7	▲28.6	14.2	14.2	0.0
小売業	▲16.6	21.4	42.8	▲21.4	21.4	28.5	▲7.1
サービス業	▲23.1	12.0	52.0	▲40.0	8.0	48.0	▲40.0
建設業	▲8.7	16.6	8.3	8.3	8.3	29.1	▲20.8
不動産業	▲22.2	11.1	22.2	▲11.1	22.2	22.2	0.0

### 業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

※回答数：国中地区 65 社、東部地区 31 社、相模原市周辺地区 18 社

31 以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲31 以下

# 概況

## <業況・売上・収益>

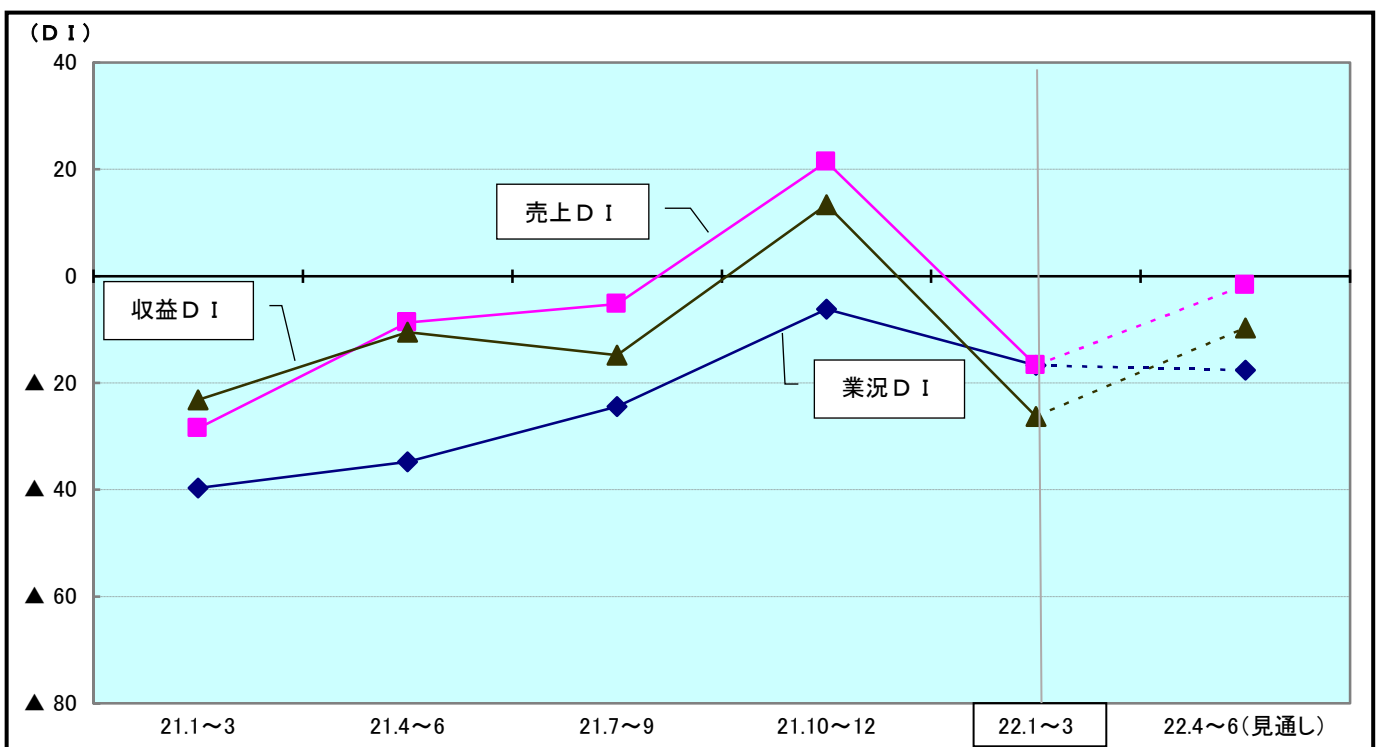
今期（1～3月）のD Iをみると、業況判断D Iは、前期（10～12月）▲6.2から▲16.7と10.5ポイント悪化（前年同期比23.0ポイント改善）となりました。売上判断D Iは、同21.4から▲16.7と38.1ポイント悪化（同比11.8ポイント改善）、収益判断D Iは同13.4から▲26.3と39.7ポイント悪化（同比3.1ポイント悪化）となりました。

今回の調査では、製造業・卸売業・小売業・サービス業で、業況D I・売上D I・収益D Iが前期比で悪化となりました。業況D Iが最も悪化した業種は卸売業で同比41.9ポイント、売上D I・収益D Iが最も悪化した業種はサービス業でそれぞれ同比78.8ポイント、82.9ポイントの悪化となりました。

全業種総合の来期見通し（4～6月）をみると、業況D Iは今期（1～3月）▲16.7から▲17.6と今期実績比0.9ポイント悪化の見通しです。また、売上D Iは同▲16.7から▲1.7と同比15.0ポイントの改善、収益D Iは同▲26.3から▲9.7と同比16.6ポイントの改善の見通しとなりました。業種別の来期見通しでは、業況D Iについて、卸売業・小売業・不動産業で改善の見通しとなった一方、製造業・建設業では悪化、サービス業では横這いの見通しとなりました。また、売上D I・収益D Iについては、製造業・卸売業・小売業・サービス業で改善の見通しとなった一方、建設業・不動産業では悪化の見通しとなりました。

### ■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	21.1～3	21.4～6	21.7～9	21.10～12	22.1～3	22.4～6 見通し
業況D I	▲39.7	▲34.8	▲24.4	▲6.2	▲16.7	▲17.6
売上D I	▲28.5	▲8.7	▲5.2	21.4	▲16.7	▲1.7
収益D I	▲23.2	▲10.5	▲14.8	13.4	▲26.3	▲9.7



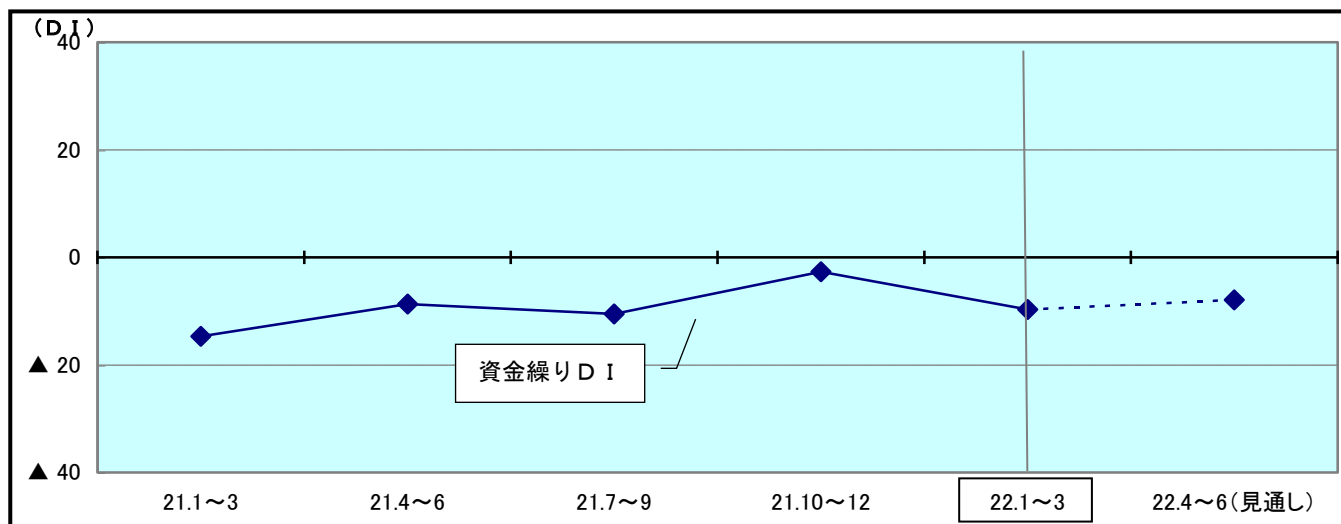
## <資金繰り>

今期（1～3月）の資金繰りDIは前期（10～12月）▲2.7から▲9.7と7.0ポイントの悪化（前年同期比5.0ポイント改善）となりました。

また、来期の資金繰りDIは▲7.9と、今期実績比1.8ポイント改善の見通しとなりました。

### ■ 資金繰りDIの時系列推移

	21.1～3	21.4～6	21.7～9	21.10～12	22.1～3	22.4～6見通し
資金繰りDI	▲14.7	▲8.7	▲10.5	▲2.7	▲9.7	▲7.9



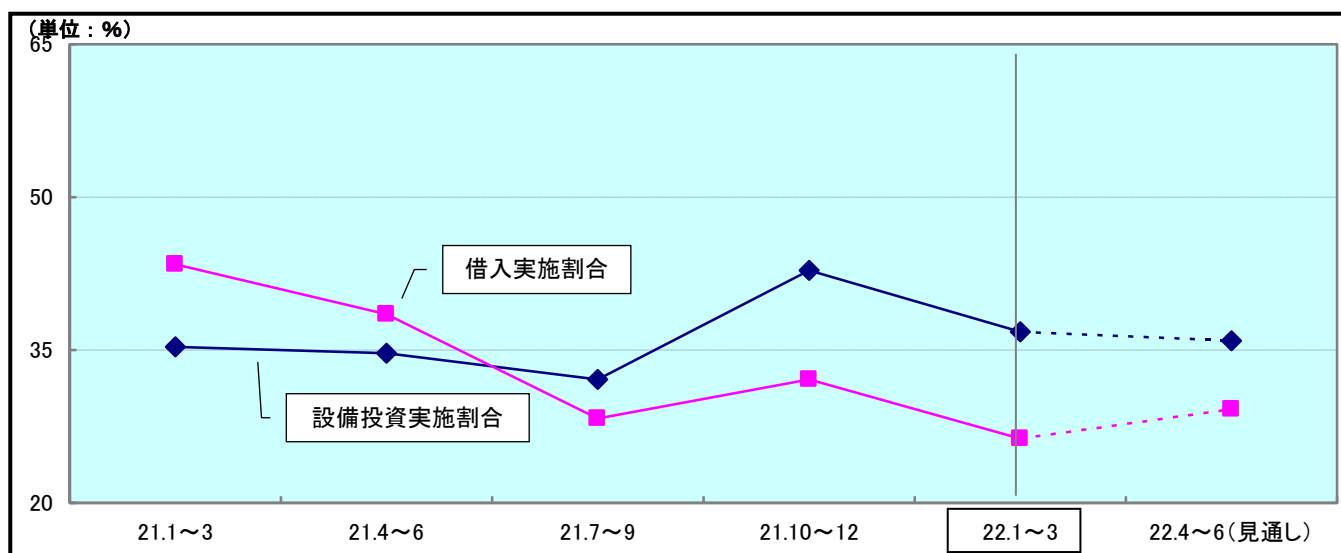
## <設備投資・借入動向>

今期（1～3月）の不動産を除いた設備投資実施企業割合は前期（10～12月）42.8%から36.8%と、前期比6.0ポイント低下しています（前年同期比1.5ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は35.9%と今期実績比0.9ポイントの低下が見込まれます。

全業種総合の借入実施企業割合は前期（10～12月）32.1%から26.3%と、前期比5.8ポイント低下（前年同期比17.1ポイント低下）しています。また、来期の借入実施予定企業割合は29.2%と今期実績比2.9ポイントの上昇が見込まれます。

### ■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	21.1～3	21.4～6	21.7～9	21.10～12	22.1～3	22.4～6見通し
設備投資実施割合	35.3%	34.7%	32.1%	42.8%	36.8%	35.9%
借入実施割合	43.4%	38.5%	28.3%	32.1%	26.3%	29.2%



# 【製造業】

## ■主要D Iの推移

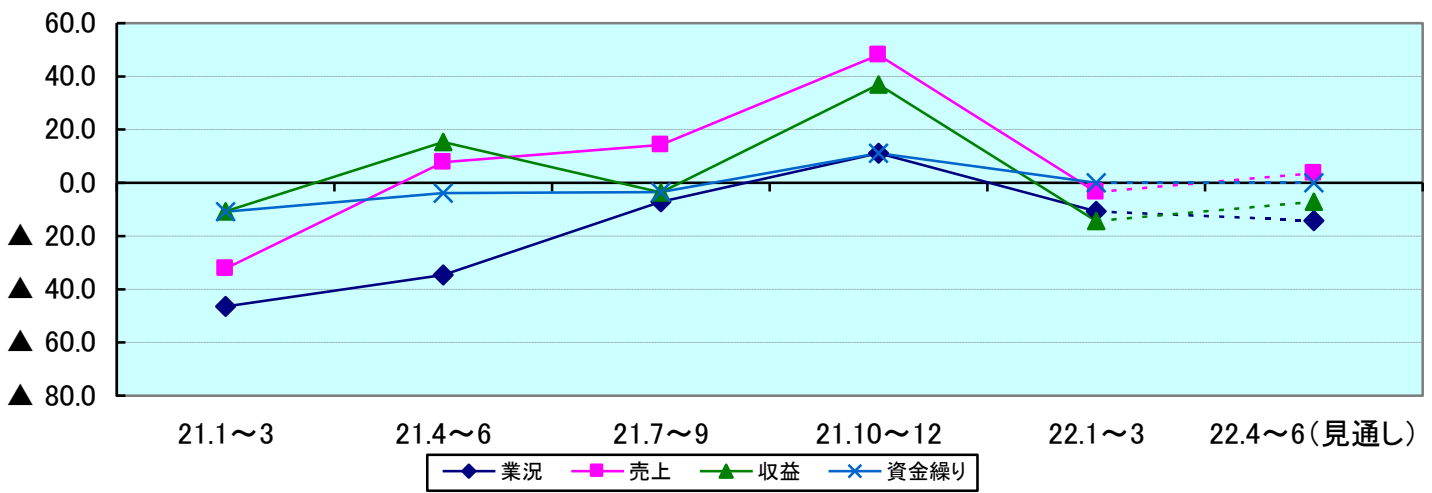
	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲46.4	11.1	▲10.7	▲14.2
売上	▲32.2	48.1	▲3.5	3.6
収益	▲10.7	37.0	▲14.3	▲7.1
資金繰り	▲10.8	11.1	0.0	0.0

## 【今期】

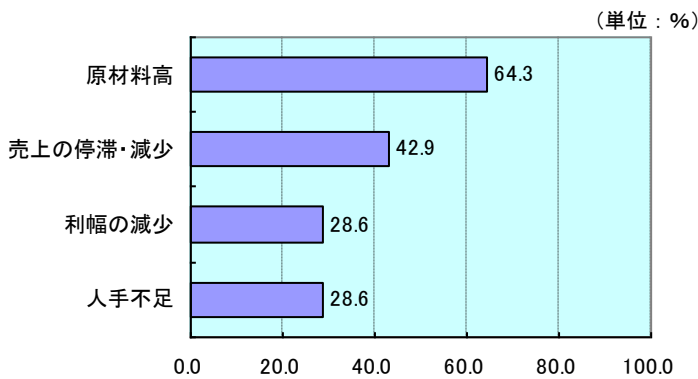
すべてのD Iで、前期（10～12月）比で悪化しました。特に、売上D Iで51.6ポイント、収益D Iで51.3ポイントと大きく悪化しました。前年同期においては、収益D Iを除き改善しました。

## 【来期】

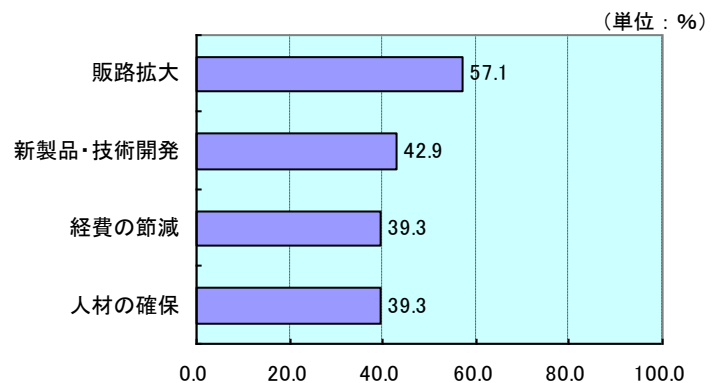
今期実績比で、業況D Iは悪化、売上D I・収益D Iは改善、資金繰りD Iは横這いの見通しとなりました。



## ■経営上の問題点



## ■当面の重点経営施策



## 【調査員のコメント】

- ジュエリー業界においては、新型コロナウイルス感染症による催事の中止が売上に影響しているほか、地金の高騰による利幅の減少が課題となっている。(貴金属・装身具)
- 半導体不足の影響から、自動車部品の加工部門は低調である一方、造船部品の加工部門は比較的好調である。(自動車部品)

# 【卸売業】

## ■主要D Iの推移

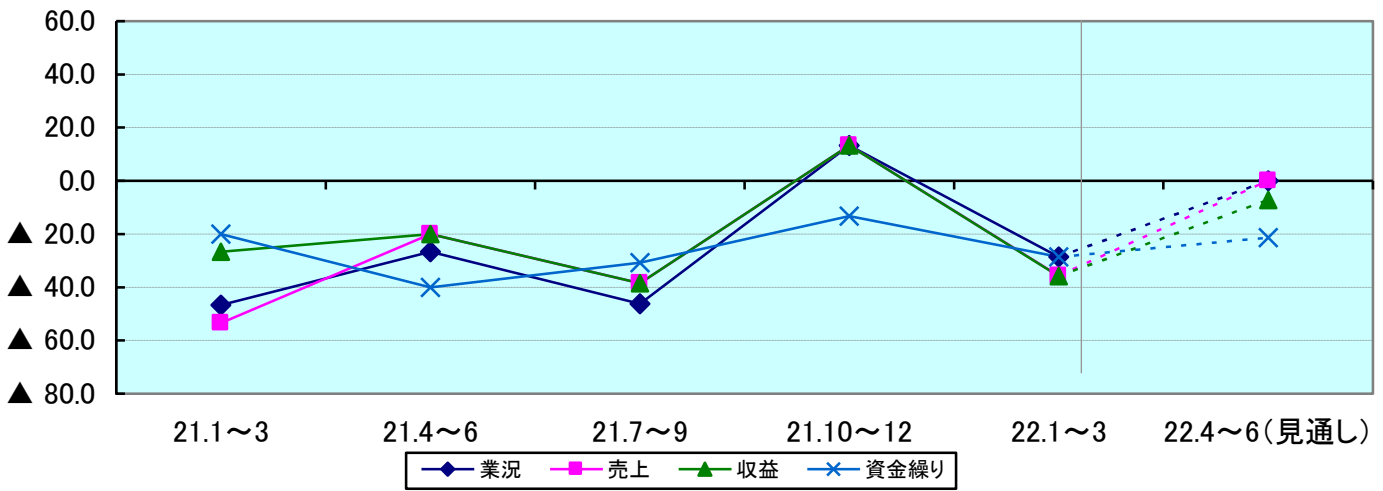
	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲46.7	13.3	▲28.6	0.0
売上	▲53.4	13.3	▲35.7	0.0
収益	▲26.7	13.3	▲35.8	▲7.2
資金繰り	▲20.0	▲13.3	▲28.6	▲21.4

### 【今期】

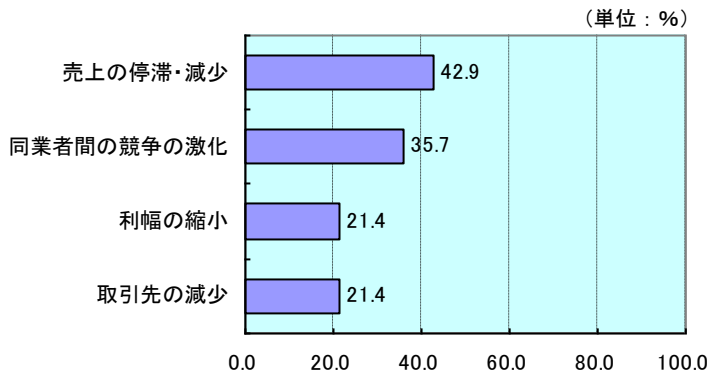
すべてのD Iで、前期（10～12月）比で悪化しました。前年同期比においては、業況D Iと売上D Iで改善し、収益D Iと資金繰りD Iで悪化しました。

### 【来期】

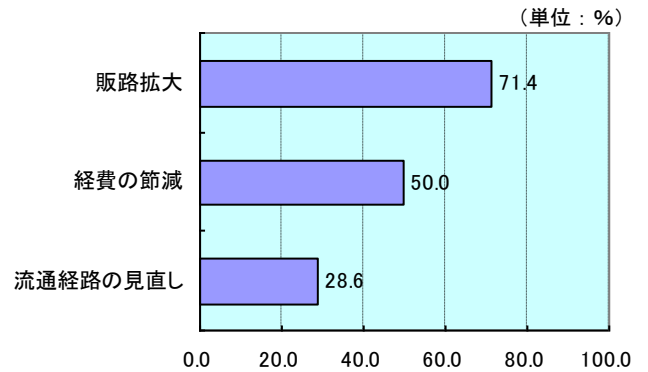
すべてのD Iで、今期実績比で改善の見通しとなりました。



## ■経営上の問題点



## ■当面の重点経営施策



### 【調査員のコメント】

- 若手の人材育成や自社ブランドの開発に注力している。(美容商材)
- 仕入価格の上昇により、販売価格の調整や着工時期の遅延等の対応を行っている。(建築資材)
- 在庫管理に気を配ることで、仕入価格の高騰に対応していきたいと考えている。(乳製品)

# 【小売業】

## ■主要D Iの推移

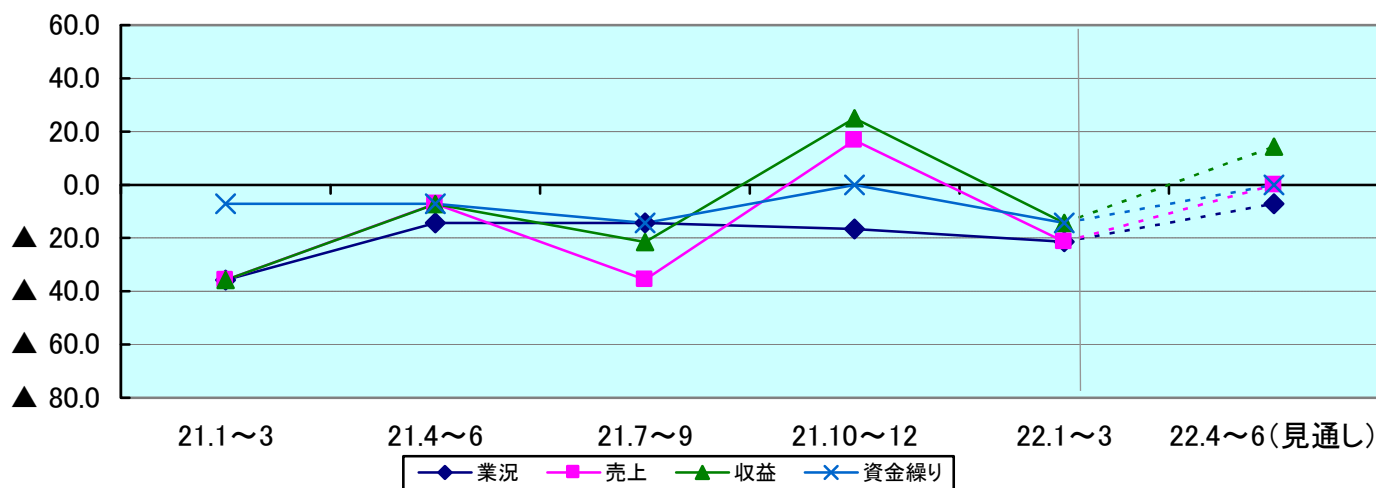
	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲35.8	▲16.6	▲21.4	▲7.1
売上	▲35.8	16.7	▲21.4	0.0
収益	▲35.8	25.0	▲14.3	14.3
資金繰り	▲7.1	0.0	▲14.3	0.0

### 【今期】

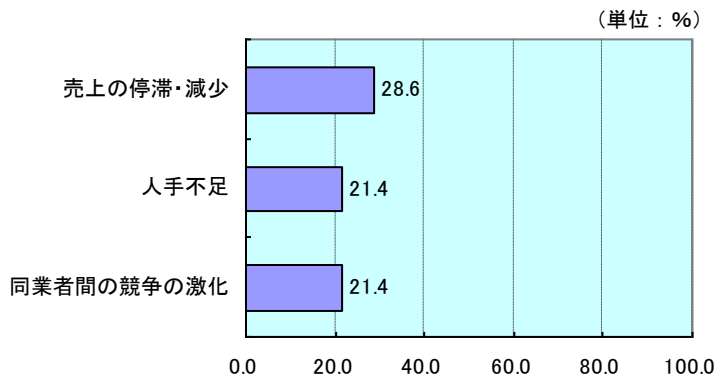
すべてのD Iで、前期(10~12月)比で悪化となりました。前年同期比では資金繰りD Iを除き改善しました。

### 【来期】

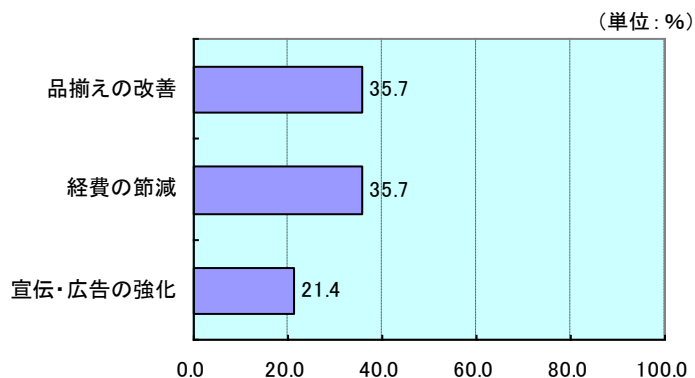
すべてのD Iで、今期実績比で改善の見通しとなりました。



## ■経営上の問題点



## ■当面の重点経営施策



### 【調査員のコメント】

- 受注は回復しているものの、半導体不足等により納期はさらに遅延傾向にある。(自動車)
- 材料費の上昇が利益を圧迫しており、メニューの工夫等、経費削減に注力していく。(仕出弁当)
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費活動の低下により、売上が減少傾向にある。(婦人服)

# 【サービス業】

## ■主要D Iの推移

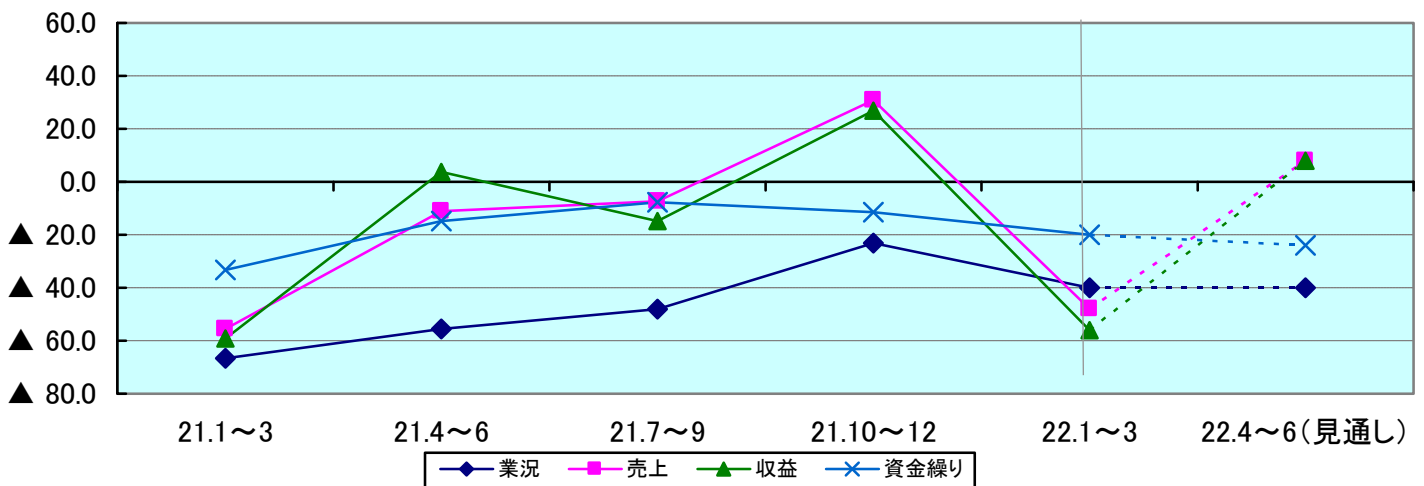
	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲66.6	▲23.1	▲40.0	▲40.0
売上	▲55.5	30.8	▲48.0	8.0
収益	▲59.2	26.9	▲56.0	8.0
資金繰り	▲33.3	▲11.5	▲20.0	▲24.0

## 【今期】

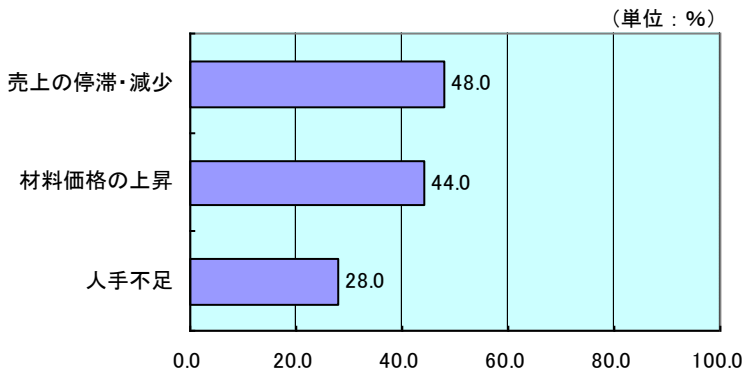
すべてのD Iで、前期（10～12月）比で悪化しました。特に、売上D Iで同比78.8ポイント、収益D Iで同比82.9ポイントと大きく悪化しました。前年同期比では、すべてのD Iで改善しました。

## 【来期】

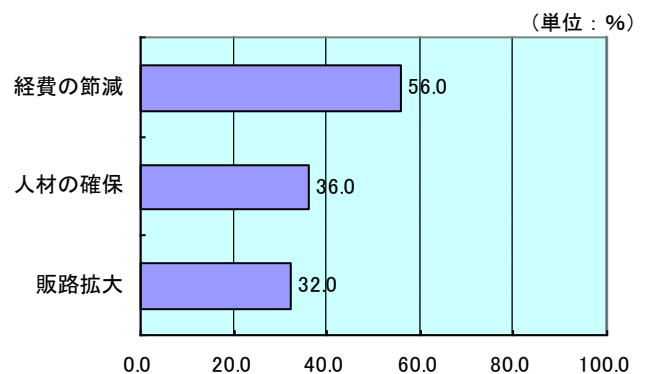
今期実績比で、業況D Iは横這い、売上D I・収益D Iは改善、資金繰りD Iは悪化の見通しとなりました。



## ■経営上の問題点



## ■当面の重点経営施策



## 【調査員のコメント】

- 原材料高騰の影響を受けており、仕入価格や仕入先の見直しが今後の課題となっている。(レジャー)
- 新たな事業展開に向け、国の補助金等を活用していきたいと考えている。(宿泊)

# 【建設業】

## ■主要D Iの推移

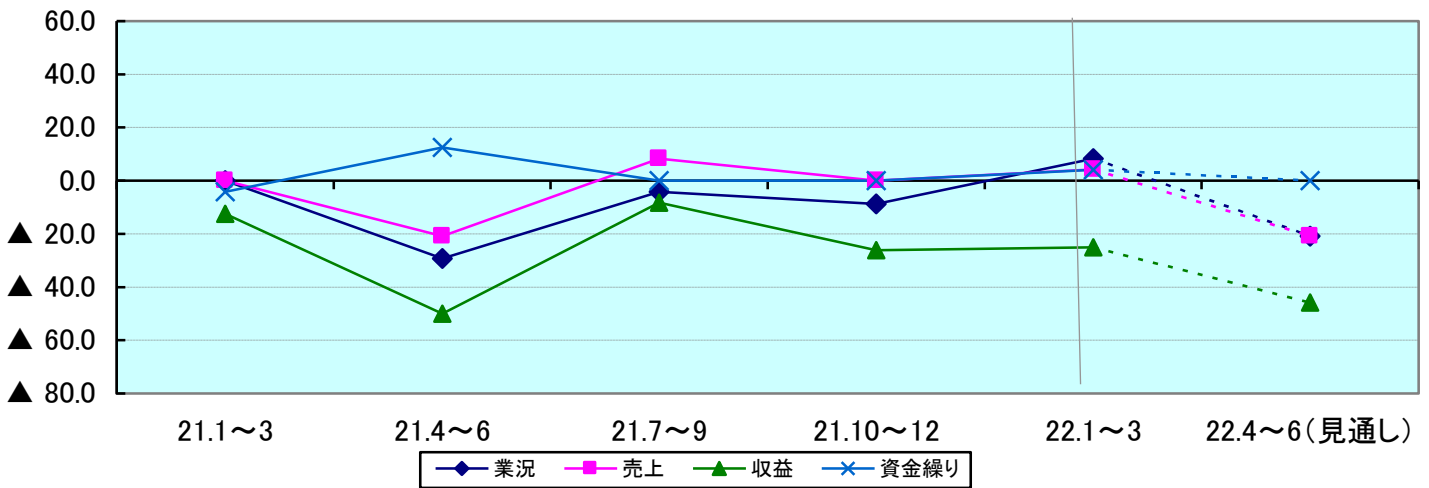
	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	▲8.7	8.3	▲20.8
売上	0.0	0.0	4.2	▲20.8
収益	▲12.5	▲26.1	▲25.0	▲45.8
資金繰り	▲4.2	0.0	4.1	0.0

### 【今期】

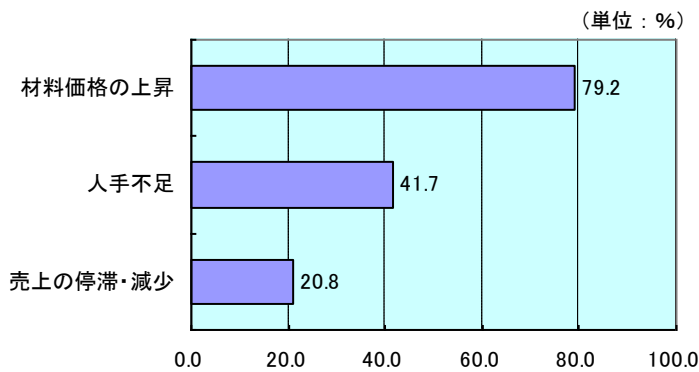
すべてのD Iで、前期（10～12月）比で改善しました。前年同期比では、業況D I・売上D I・資金繰りD Iで改善した一方、収益D Iでは悪化しました。

### 【来期】

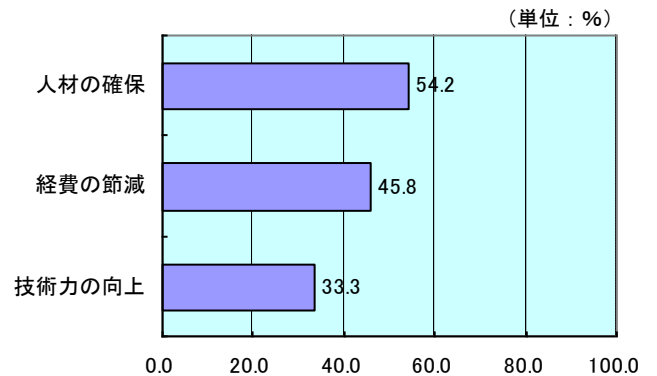
すべてのD Iで、今期実績比で悪化の見通しとなりました。



## ■経営上の問題点



## ■当面の重点経営施策



### 【調査員のコメント】

○業界全体が人材不足による問題を抱えており、今後労働条件等の見直しが必要と考えられる。

(建築工事)

○部品調達が遅延しており、今後売上高への影響が懸念される。(電気工事)



# 【不動産業】

## ■主要D Iの推移

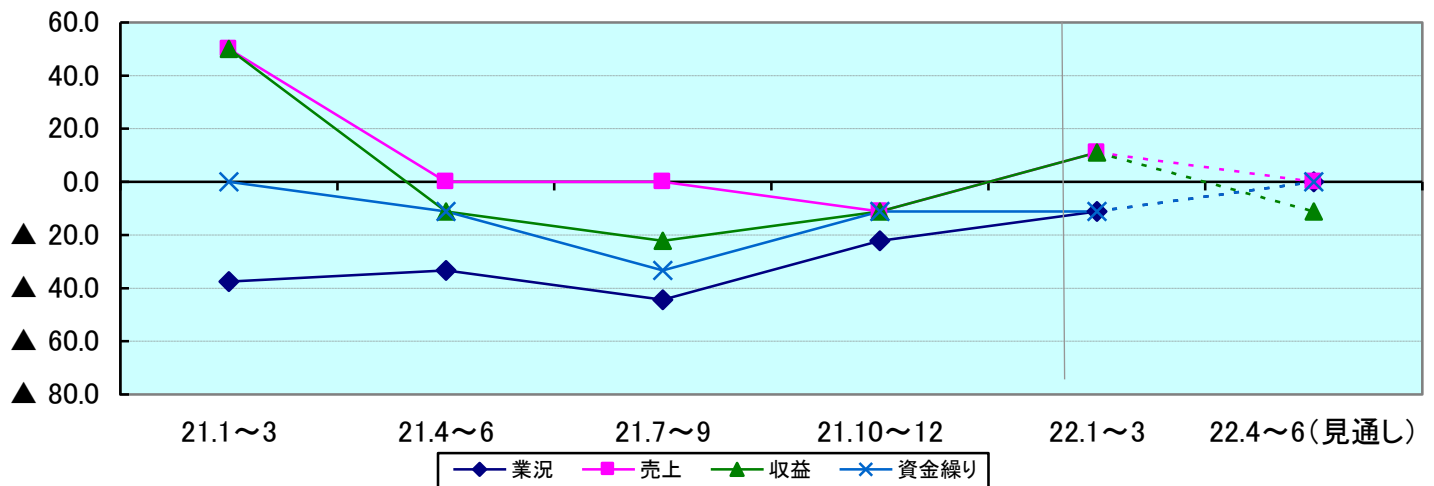
	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲37.5	▲22.2	▲11.1	0.0
売上	50.0	▲11.1	11.1	0.0
収益	50.0	▲11.1	11.1	▲11.1
資金繰り	0.0	▲11.1	▲11.1	0.0

### 【今期】

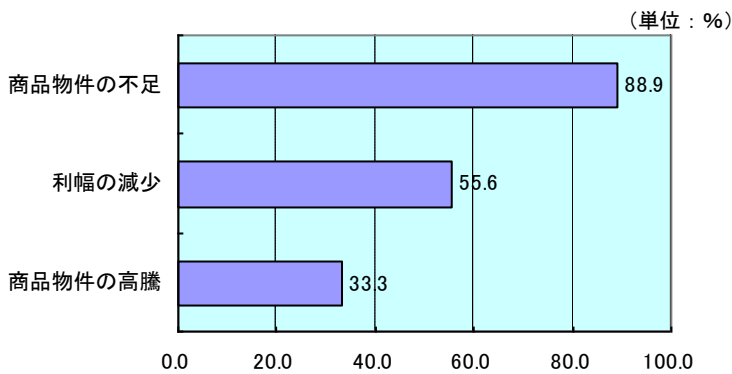
資金繰りD Iを除き、前期(10~12月)比で改善しました。前年同期比では、業況D Iを除いて悪化しました。

### 【来期】

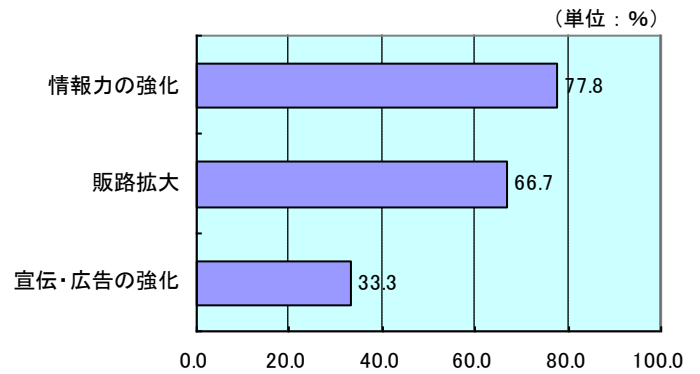
今期実績比で、業況D I・資金繰りD Iは改善、売上D I・収益D Iは悪化の見通しとなりました。



## ■経営上の問題点



## ■当面の重点経営施策



### 【調査員のコメント】

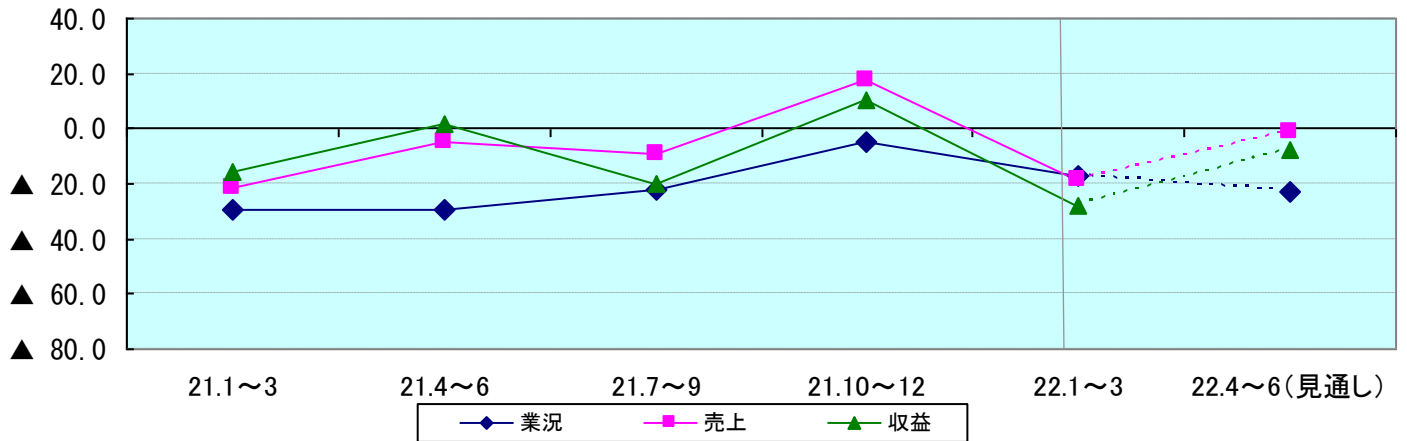
- 木材の他、半導体や陶器類についても調達に要する期間が長期化している。(不動産売買・仲介)
- 材料不足に伴う物件の工期の遅れにより、資金繰りに影響が出ている。(不動産売買・仲介)

## <地区別D I の状況>

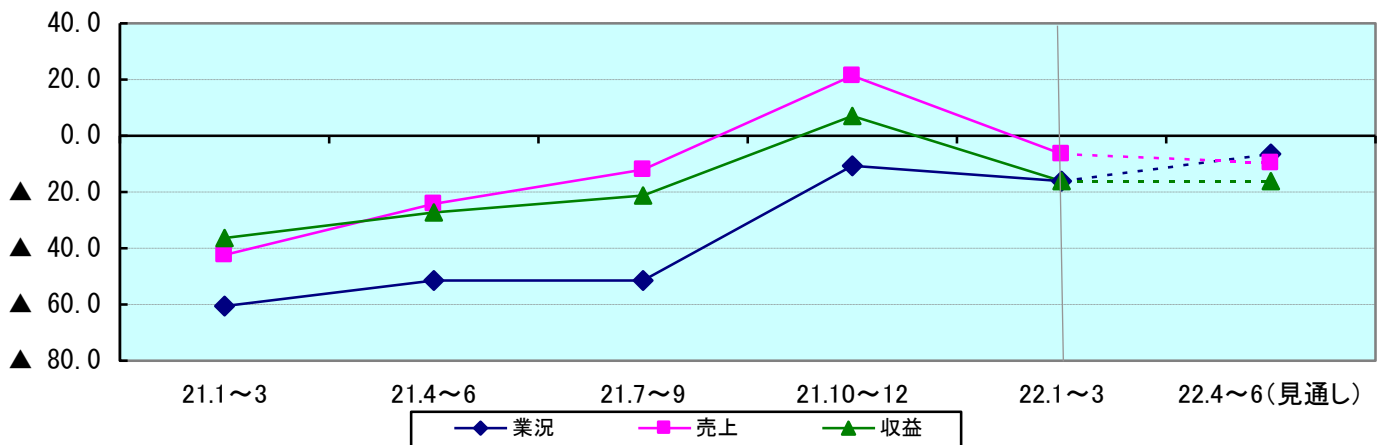
今期については、すべての地区で、すべてのD Iが前期（10～12月）比で悪化しました。特に、相模原周辺地区では、売上D Iが57.5ポイント、収益D Iが51.6ポイントと大きく悪化した一方、前年同期比では、すべての地区で業況D Iが改善しました。

来期の見通しについては、相模原周辺地区で、すべてのD Iが改善の見通しとなりました。一方、山梨県国中地区では業況D I、東部富士河口湖地区では売上D Iがそれぞれ悪化の見通しとなりました。

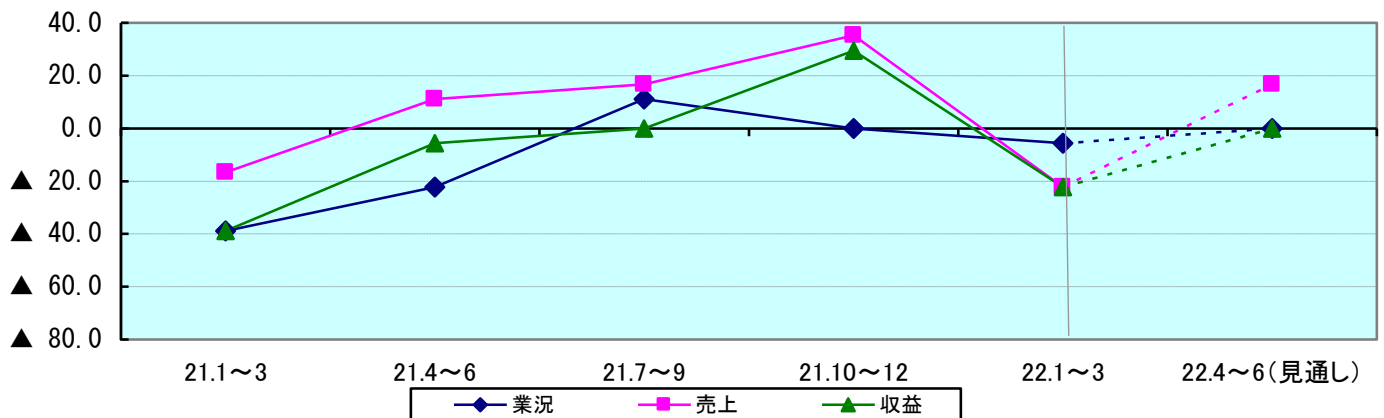
### 【 山梨県国中地区D I の推移 】



### 【 東部富士五湖地区D I の推移 】

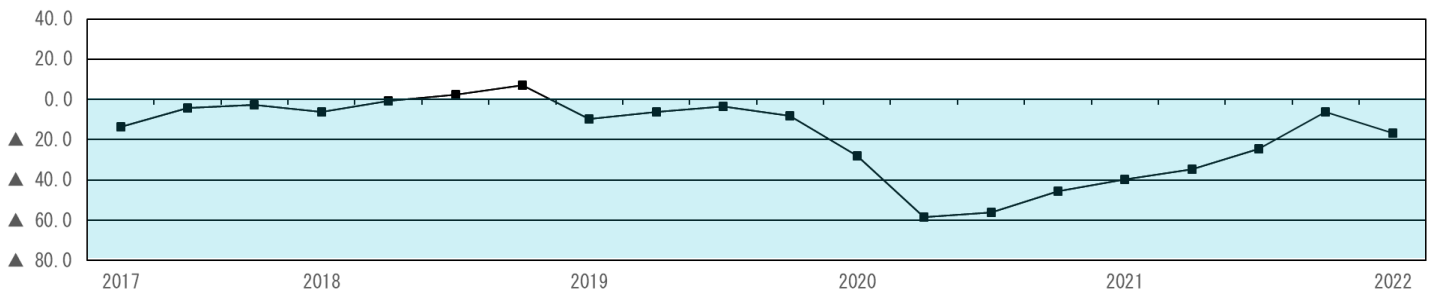


### 【 相模原周辺地区D I の推移 】

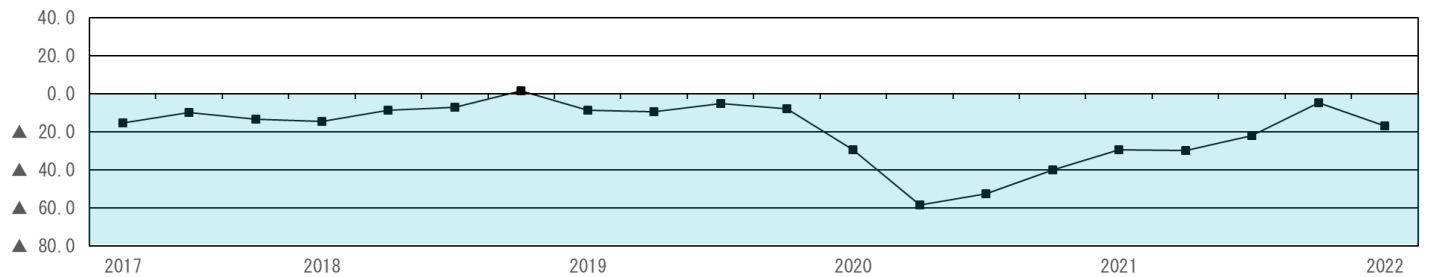


# <業況D I の5年間の推移>

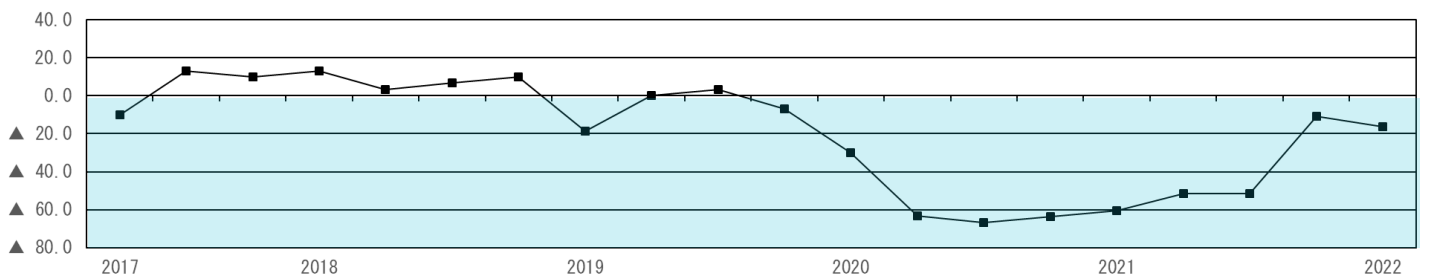
## 【 総合D I の推移 】



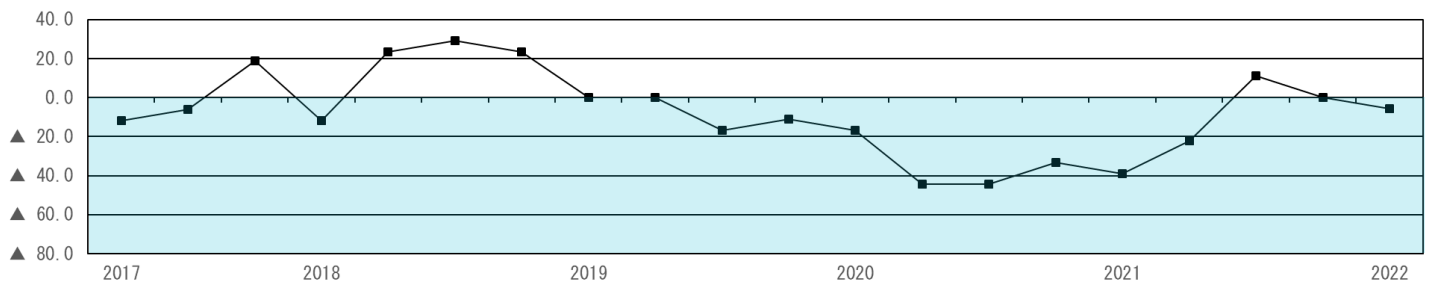
## 【 山梨県国中地区D I の推移 】



## 【 東部富士五湖地区D I の推移 】



## 【 相模原周辺地区D I の推移 】

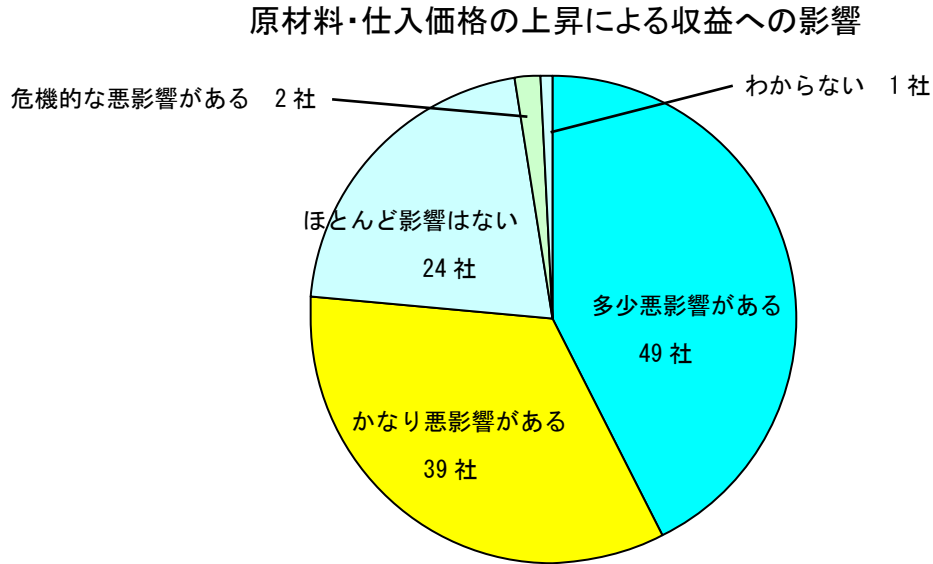


特別調査

「原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について」

◆貴社では、最近の原材料・仕入価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。

(回答企業：115社)



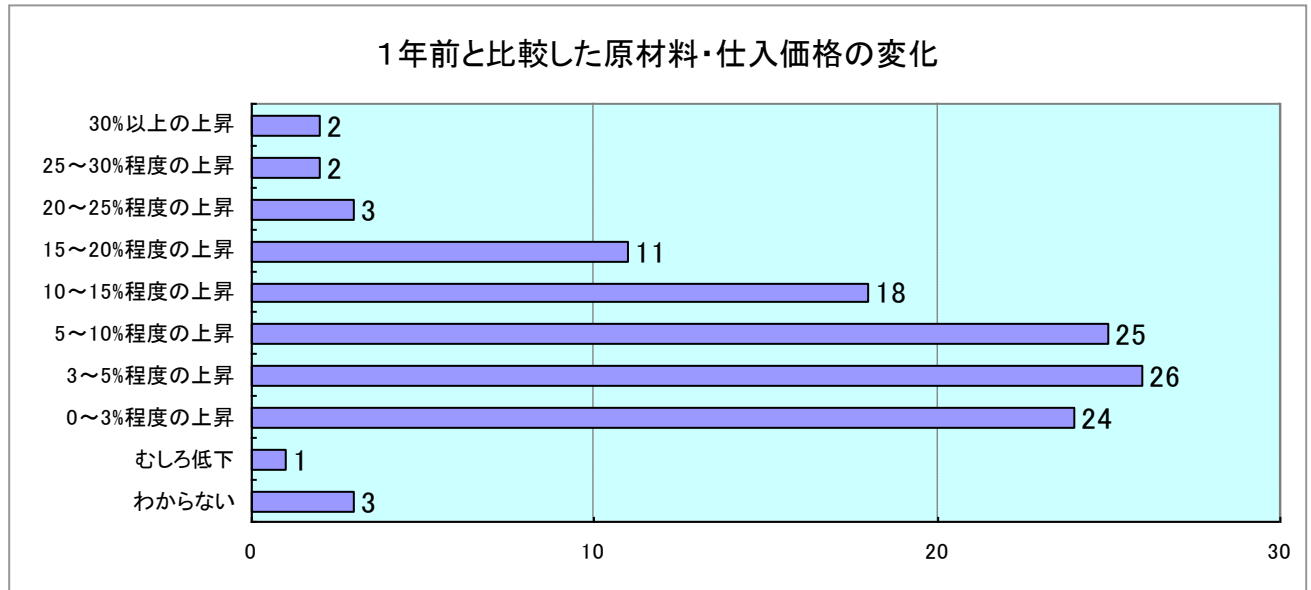
最近の原材料・仕入価格の上昇による自社の収益への影響について、『悪影響がある』（「危機的な悪影響がある」・「かなり悪影響がある」・「多少悪影響がある」の合計）と回答した企業は、全体の78.2%となりました。一方、「ほとんど影響はない」と回答した企業は、全体の20.8%となり、「むしろ好影響がある」と回答した企業はありませんでした。

『悪影響がある』と回答した割合が高い業種は製造業（92.86%）、次いで建設業（83.3%）となりました。また、「ほとんど影響はない」と回答した割合が高い業種は不動産業（44.4%）、次いで卸売業と小売業（ともに28.57%）となりました。

◆貴社の原材料・仕入価格は、1年前と比較してどの程度変化しましたか。  
また、原材料・仕入価格の上昇のうち、どの程度を販売価格に転嫁できていますか。

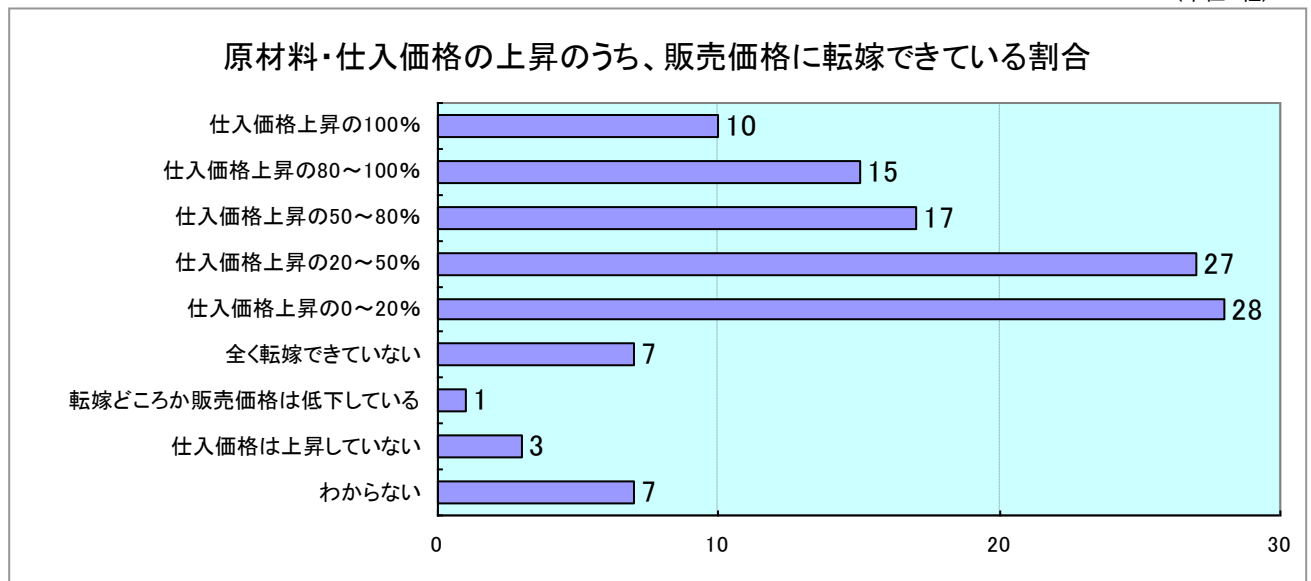
(回答企業:115社)

(単位:社)



1年前と比較した原材料・仕入価格の変化について、回答のうち、「3~5%程度の上昇」が22.6%と最も多く、次いで「5~10%程度の上昇」が21.7%、「0~3%」が20.8%となりました。

(単位:社)



原材料・仕入価格の上昇のうち、販売価格に転嫁できている割合について、「ほとんど転嫁できていない」が24.3%と最も多く、次いで「多少転嫁できている」が23.4%、「ある程度転嫁できている」が14.7%となりました。

「仕入価格上昇の100%」あるいは「仕入価格上昇の80~100%」と回答した割合の高い業種は不動産業(44.4%)、次いで卸売業と小売業(ともに35.7%)となりました。

「仕入価格上昇の50~80%」あるいは「仕入価格上昇の20~50%」と回答した割合の高い業種は建設業(62.5%)、次いで不動産業(44.4%)となりました。

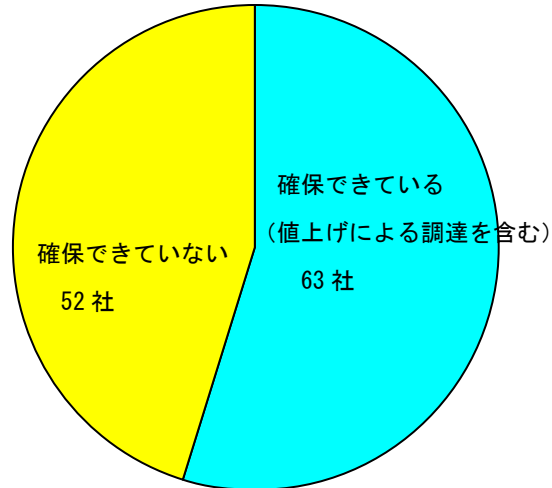
「仕入価格上昇の0~20%」あるいは「全く転嫁できていない」と回答した割合の高い業種は製造業(46.4%)、次いでサービス業(36.0%)となりました。

◆原材料・仕入については、価格の上昇のほか、調達遅延、数量確保困難などといった声も聞かれています。貴社では、各種資材や製商品の量や質は確保できていますか。

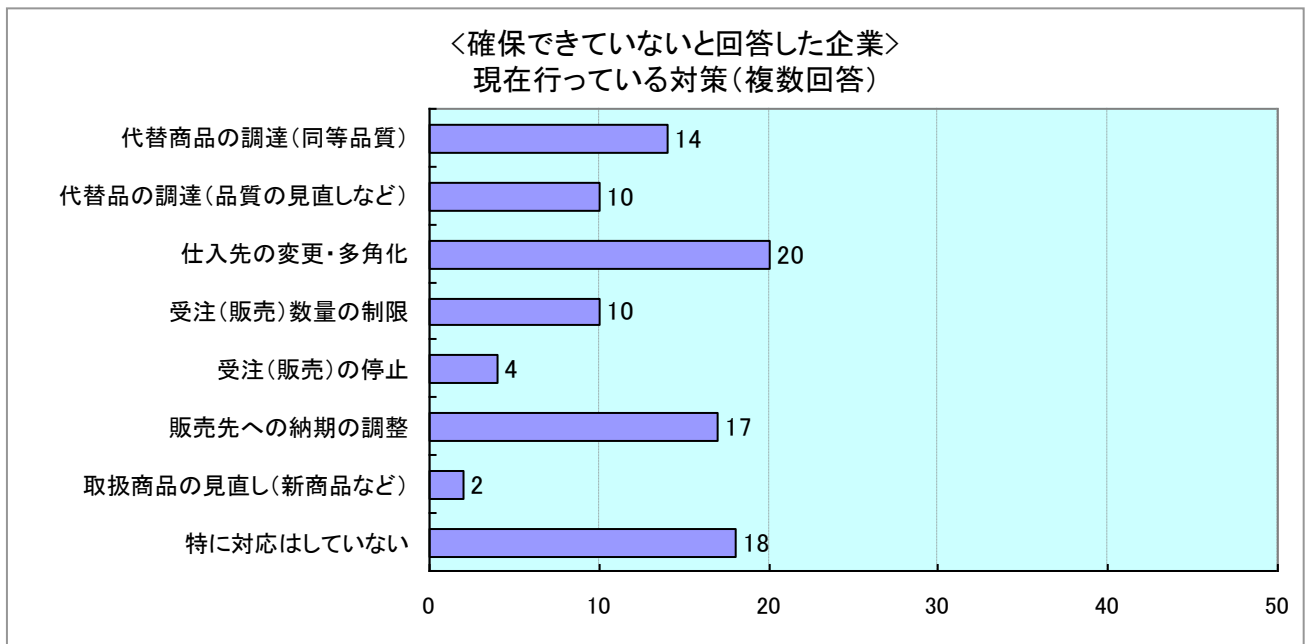
また、問題を抱えている場合は、現在行っている対策をお答えください。

(回答企業:115社)

### 各種資材や製商品の量や質の確保について



(単位:社)



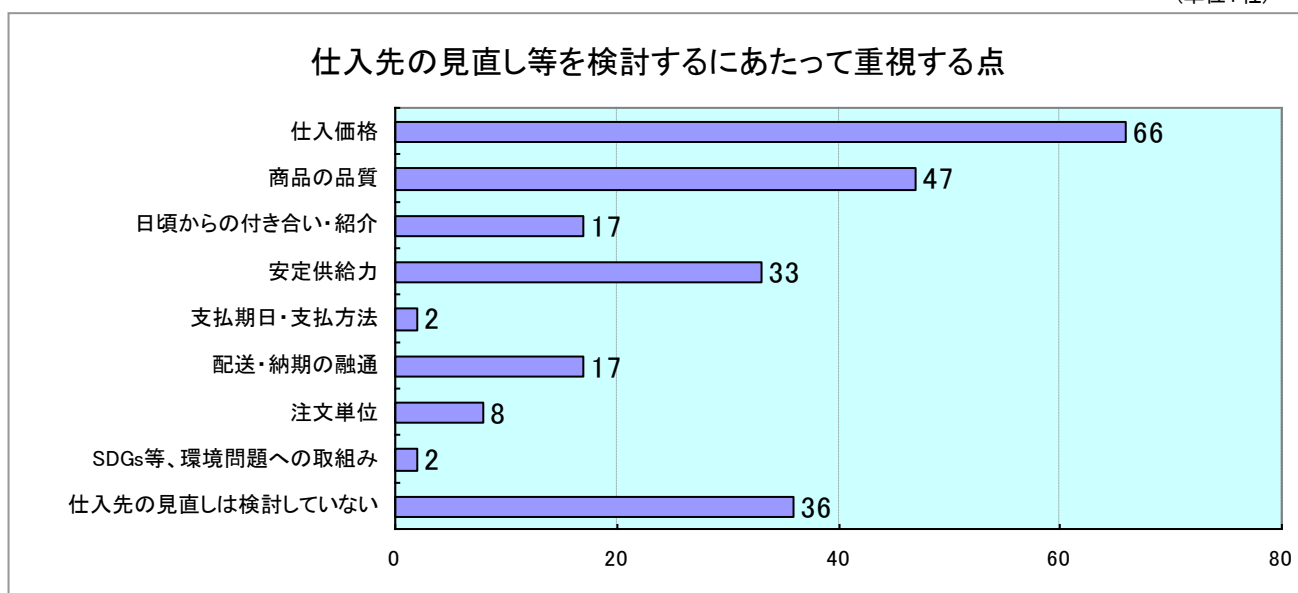
各種資材や製商品の量や質について、「確保できている」と回答した企業は全体の54.7%となり、「確保できていない」と回答した企業は45.2%となりました。「確保できている」と回答した割合の高い業種は卸売業(78.5%)、次いで製造業(67.8%)となり、「確保できていない」と回答した割合の高い業種は建設業(70.8%)、次いで不動産業(66.6%)となりました。

「確保できていない」と回答した企業のうち、現在行っている対策について、「仕入先の変更・多角化」が38.4%と最も多く、次いで「特に対応はしていない」が34.6%、「販売先への納期の調整」が32.6%、「代替商品の調達(同等品質)」が26.9%となりました。

## ◆貴社では、仕入先の見直し等を検討するにあたって、重視する点がありますか。

(回答企業:115社)

(単位:社)



仕入先の見直し等を検討するにあたって重視する点について、「仕入価格」が57.3%と最も多く、次いで「商品の品質」が40.8%となりました。「仕入価格」と回答した割合の高い業種は卸売業(71.4%)、次いで製造業(67.8%)となり、「商品の品質」と回答した割合の高い業種は製造業(60.7%)、次いで不動産業(55.5%)となりました。

一方、「仕入先の見直しは検討していない」は31.3%となり、回答割合の高い業種は小売業(42.8%)、次いで建設業(37.5%)となりました。

## 編集後記

このたびの中小企業景気動向調査については、お忙しい中、ご協力を賜り誠にありがとうございました。今回のDI調査では、総合ですべてのDIが前期(10~12月)比で悪化となりました。今期については、新型コロナウイルスのオミクロン株流行等の影響もあり、特にサービス業で売上DIと収益DIが大きく悪化しました。前年同期比では、すべての業種で業況DIが改善しました。

来期(4~6月)については、総合で業況DIが若干悪化の見通しとなっているものの、売上DI・収益DI・資金繰りDIは改善の見通しとなりました。

特別調査では、「原材料・仕入価格の上昇による中小企業への影響について」と題し調査した結果、最近の原材料・仕入価格の上昇による自社の収益への影響について、全体の約7割の企業が「悪影響がある」と回答しました。また、原材料・仕入価格の上昇のうち、販売価格に転嫁できている割合について、「仕入価格上昇の0~20%」あるいは「仕入価格上昇の20~50%」と回答した企業が多い結果となりました。今後、多くの商品やサービスについて値上げが予定されており、原材料価格の高騰は消費生活にも大きな影響を与えることが予想されます。

当金庫は、今後とも地域の皆さまのお役に立てるよう様々なニーズに応じた商品・サービスの提供や各種支援制度等の情報提供に一層努めてまいります。また、コロナ禍における資金繰り支援や本業支援にも積極的に取り組んでいます。「新型コロナウイルスに関する相談窓口」の設置期間および「新型コロナウイルス感染症対策特別融資」の取扱期間は2023年3月31日まで、「事業性融資および個人ローン条件変更手数料」の免除期間は2022年9月30日まで延長しておりますので、引き続き営業店や担当者までご相談ください。